

【分科会記録】第 9 分科会

(参加人数 25 人)

分科会テーマ	学校図書館運営の実際（読書センター機能） 共につくる本との出会い①
司会	氏名 佐伯 高基（富山県高岡工芸高等学校） 氏名 多賀 陽介（富山県入善高等学校）
記録	氏名 高木 千香（長野県佐久平総合技術高等学校）

1 発表の概要

(1) 発表者氏名 吉田 輝子（富山県 新川みどり野高等学校）

「手にとり目でみて、一冊の本と出会える図書館づくり」

◎効果的な図書館案内の多角的アプローチ

- ・情報発信→図書だより、図書掲示板で新刊・話題の本の紹介、季節の装飾、
- ・空間活用→館内の書架の空きスペースに話題の本などをPOPとともに表紙を見せて展示
- ・企画活動→図書委員会が工夫を凝らした新刊図書のPOPづくり（学期に1回）、冊子作成、各教科の先生からの図書案内文「生徒に読んでもらいたいこの1文」を集め図書委員がパネルにイラストを描き図書館に展示

◎生徒の目線に立った取り組みが図書館に足を運ぶきっかけになっている。

◎図書委員会活動がリーダーの育成につながっている。

(2) 発表者氏名 岩崎 將展（富山県 下新川郡朝日町立朝日中学校）

「生徒が主体となる図書館運営～生徒会『図書委員会』を中心とした来館者を増やす取り組み～」

◎まずは図書館にきてもらおう

- ・POP作成→廊下から図書館内が見える位置に「図書委員おすすめ本コーナー」を設置。
　　おすすめ本にPOPをつけてコーナーに展示したところ来館者増加

・読書週間の取組

貸出スタンプラー

→本を1冊借りるごとにスタンプ1つ。スタンプ5つで図書委員特製のしおりを贈呈
　　大好評で普段利用しない生徒の利用促進に繋がった。

先生のおすすめ本紹介

→給食の時間に図書委員が先生はどんな本が好きかインタビュー
　　多くの生徒に本の魅力を伝えられた。

・給食に本に出てくる料理を給食に

→給食委員とコラボした取り組み。栄養教諭がいくつか献立を考え、生徒が食べたいも

のをアンケートで選ぶ。図書委員は料理が出てくる本の内容・場面を発表し、内容についてクイズを行った。来館者の増加につながった。

・図書館を自習室として開放

→定期考査中に開放した。自習に利用する中で本を手に取ることもあった

◎来館者を増やす目的は達成できたので、貸出数を増やす、本が身近なもので生活に役立つという経験を増やす活動につなげていく

(3) 発表者氏名 平林 怜（長野県 南牧村立南牧中学校）

「南牧生の興味関心を生み出す活動に挑戦」

◎本に触れる機会を増やす。図書館が教室から遠いという不利な条件を補う工夫

・読書についてのアンケート調査

→本は好きだが図書館から借りることは少ない。家から本を持ってきて読んでいる。理由は「学校にある読みたいジャンルの本を読み終えたから」が多かった

・ブックバス訪問を実施

→ブックバスの書棚から生徒が各自好きな本を 2 冊選び、その本が無償でもらえるという古書店が行っているサービスを利用。選んだ本は学級文庫として活用。あまり本を読まないという生徒でも友だちが選んだ本に興味を持つなど、生徒に好評

・ブックトーク

→朝読書の時間を利用し月 1 回定期的に絵本のブックトークを実施。紹介された本は昇降口廊下スペースにブックシェルフを用意して展示

(4) 発表者氏名 赤松 信弘（石川県 金沢大学人間社会学域学校教育学類附属高等学校）

「図書館に足を向けたくなる運営」

◎企画展示を中心とした生徒の図書館活動を推進

・司書による企画展

→誰も読まない図書展、人気の図書展、Book of the Year 展、気分転換の図書展

・生徒自治による図書推進活動

→生徒による市内書店での図書選考会を実施し、選んだ本を図書館に展示するとともに、選んだ本の書評を図書館報に掲載し全生徒に発行

・教科による実践

→国語科、公民科での実践の紹介

2 討議の概要

質疑

(1) 「手にとり目でみて、一冊の本と出会える図書館づくり」について

・冊子のイラスト製作者は誰か、また冊子作成の予算はいくらか（水田 山王小）

→冊子のイラストは図書委員が美術部員に依頼。生徒からデータをもらい学校で印刷しているので費用は紙代程度。活動している図書委員は実質 10 名。

- ・蔵書構成は、また予算は。（藤田 春富中）

→読み物系が多い。リクエスト本は 20 冊くらい。SLBA のカタログから図書委員が選ぶ。教科の要望も取る。

- ・予算、年間購入冊数が少ないと感じる。定時制だからなのか、全日制普通科はどのくらいか。図書委員活動のモチベーションになっているものは何か。（高木 佐久平総合技術高）

→かつては年 120 万円ということもあったが、削られて 30 万円に。おとなしい委員にとって図書館は居場所になっている。

→富山県は 700 人規模の高校で 50 万円くらい。新聞、雑誌も購読するので本の購入は年間 150 冊くらい。そのため新しい本に更新できない。図書費の増額を要望していきたい。

(2) 「生徒が主体となる図書館運営～生徒会『図書委員会』を中心とした来館者を増やす取り組み～」について

- ・開放中の図書館の管理は誰がするのか。教員不在時に本の紛失の心配は。（下里 三郷中）

→各学年から 1 人教員が図書館にいるようにしている。落ち着いた学校で紛失はほとんどない。

(3) 「南牧生の興味関心を生み出す活動に挑戦」について

- ・小 5 から中 3 がアンケート対象だが図書館は小中共用か。地域の方が図書館の本に触れる機会をつくっているのか。（河合 佐久穂町図書館）

→別々だが、司書が小中兼務。中学の文化祭に小 5 ・ 小 6 年生が参加する企画がありその際図書館を見る機会はある。

昇降口のブックシェルフは両面使用でき、絵本なら片面 15 冊くらい展示できる。来校者はだれでもブックシェルフの本を見ることが可能で、地域の人が学校に来る機会は多い

- ・ブックバスの運営は、利用頻度は、費用は（佐伯 高岡工芸高）

→ブックバスは村営ではない。そういう取組をしている書店がある。

村が申し込んで村内の全ての小中学校を 1 日で回ってもらっている。日程の設定は書店側の都合があり、希望する日になるとは限らない。本は無料で提供され学校側の費用はかかるない。

- ・絵本のブックトーク 3 分は長くないか（水田 山王小）

→話すことが苦手な生徒もあり、3 分は目安の時間で短くても良い。読まなければ本について語れないので。必ず読むためには絵本の方が物語よりハードルが下がる

(4) 「図書館に足を向けたくなる運営」について

- ・除籍の本はどうするのか（吉田 新川みどり野高）
→大学に問い合わせ、大学が不要なら処分
- ・除籍基準は（佐伯 高岡工芸高）
→統計が古い、10 年以上貸出がない、書棚がいっぱい、過去の寄贈本（宗教団体から）
- ・寄贈本の扱いは、大学のデータベースにのるのか（佐伯 高岡工芸高）
→寄贈本も登録する。大学の図書館で登録してもらう事で高校側の事務処理の負担は軽減されている
- ・蔵書構成は（佐伯 高岡工芸高）
→新書が多い。話題の本など分類はバラバラ。

全体を通して

- ・公共図書館の立場から小・中・高校でこういうことを教育して欲しいと思う事は（加藤 小海高）
→下校後に図書館で閉館まで勉強のために生徒が利用したり、本を借りている。特に学校で教育して欲しいと思う事ではなく、場面に応じて利用について教えていくことは公共図書館としても課題である（波場 安曇野市図書館）
- 学校図書館と町の図書館でデータを共有しているので、学校に無ければ公共図書館の本を利用できるようになっている。学校と公共で仲良くやっている。児童・生徒の利用促進を働き掛けている

【分科会記録】第 10 分科会

(参加人数 28人)

分科会テーマ	学校図書館運営の実際（読書センター機能） 共につくる本との出会い②
司会	岡山咲子（石川県加賀市立錦城東小学校）
記録	中村仁志（長野県中野市立平野小学校）

1 発表の概要

(1) 発表者 青山里緒（石川県小松市立矢田野小学校）

発表テーマ「未来をみつめ、豊かな学びを創造する学校図書館をめざして」

・活字離れの傾向にある中で読書の量と質を高めるための取組として、「先生のおすすめ本の紹介」の読み聞かせ動画を配信したり、季節ごとのイベントを実施したりした。

市立図書館が推薦する「本のとびら」という冊子の活用も行ったが、「読まなければ」と感じる児童も多かったことから、「本のお部屋」コーナーを設置して国語科の学習関連本を集め、読書記録を書く取組を行った。

・成果 取り組みをきっかけとして本の楽しみを知り、長い本に挑戦する姿が見られた。

・課題 学年があがるにつれて十分な読書時間が確保できていない。いつでもどこでも読書に親しめる工夫があるとよい。

(2) 発表者 中田章子（富山県砺波市立出町中学校）

発表テーマ「委員会活動から広げる読書活動」～図書室をみんなのものにするために～

・生徒が主体となって活動する委員会活動を通して読書活動を推奨することを願い、市立図書館で開催している「POP展示会」に参加し、学校内でも「POPコンテスト」を実施した。市立図書館に展示されているPOPを参考作品としてお借りすることで創作意欲が高まった。また、「わくわくブックビンゴ」や「ブックラポン」などの活動も行った。

・成果 貸し出し冊数が前年度に比べて1.6倍に増えた。

・課題 POPの評価にイラストの上手さだけではなく、本の内容の要約や面白さを伝える文章表現等に着目できるようになるとよい。

(3) 発表者 紺 聖子（富山県上市町立相ノ木小学校）

発表テーマ「本がすき！読書の輪を広げよう！」～図書委員会の取組を通して～

・児童が図書室に足を運び、本に親しむ機会を増やすこと、子供達が本を好きになることを目指して図書委員会の活動を考え実践してきた。「Let's read！」というシール台帳を作成し、個人や学年の目標冊数を記入した。図書委員による読み聞かせやおすすめの本コーナーの設置、校内ビデオ放送による本の紹介や図書まつりでのおみくじ、クイズなどを実施した。

・成果 児童一人あたりの貸出冊数が、前年度に比べ15冊以上増えた。

・課題 図書委員の過度な負担にならないようにしたい。

(4) 発表者 和田紗里花（新潟県胎内市立中条小学校）

発表テーマ「ボランティアと共に創る『読書週間』の取組」

- ・胎内市はコミュニティスクールを積極的に推進している。中条小学校は、古くから「地域と共にある」学校像を掲げて歩みを進めてきていた。読書週間で図書委員が行っている「本に親しむ活動」に、ボランティアの方々と共に取り組んだ。読み聞かせる時の注意点等を教えていただいた。図書委員の児童は、「ボランティアの方がいてくださったおかげで、本の選び方や読み方の工夫を知ることができて良かった」と振り返った。
- ・成果 児童もボランティアの方も双方ともに主体的に活動することができた。
- ・課題 「相手を意識して読むことに課題がある」とアドバイスをいただいた。活動の幅を広げると共に、質を高めていく。

2 討議の概要

学校図書館の読書センターとしての機能は「児童生徒の創造力を培い、学習に対する興味・関心等を呼び起こし、豊かな心をはぐくむ、自由な読書活動や読書指導の場」である。今回の実践発表では、児童一人あたりの貸し出し冊数が増えたり、児童が本の楽しさを感じて長い本に挑戦する姿が見られたり等、児童生徒が活動に対して主体的に取り組む姿が見られた。また、読書活動の実践を進めるにあたっては、公共図書館や地域のボランティアの方々との連携をしていて、更に活動を進めていく過程で学校司書の先生と司書教諭（または図書館教育係の先生）が相談して活動を進めていく上での課題を見つけ出し、その課題を協働して解決していく様子をお聞きすることができた。

課題としては、学年があがるにつれて読書時間が減少していく現状への取り組み方や P O P 作りにおいて本の内容の要約や面白さを伝える文章表現の質を高める等の読書活動としての質を高めるための取り組み方等が挙げられた。すべての子どもに本を選んで読む経験、読書に親しむきっかけを与えるためには、全校で教科指導と連動した読書指導年間指導計画を作成して、全教科・領域、全教員による指導計画に基づいて実践することが大切ではないかという意見が出された。島根県松江市には学校図書館支援センターがあり、支援センターが「学び方体系表」<～松江市の子どもたちの情報リテラシーを育てる～>を作成している。小学校 1 年生から中学校までの 9 年間で学ぶこと（指導すること）が一目瞭然であり、自分が今指導している学年の学習内容は、この先どのような学びにつながっていくのかを体系的な観点から理解して指導することができる。このような体系表を活用しながら、司書教諭（または図書館教育係の先生）と学校司書、さらには情報教育係の先生方やすべての教員が協働して学びを進めていくことも期待できるであろう。

実践発表をしてくださった先生方、司会を担当してくださった先生、分科会担当の先生のおかげで有意義な時間を過ごすことができたことに感謝して第 10 分科会の記録とします。

【分科会記録】第 1 分科会

(参加人数 19 人)

分科会テーマ	学校図書館運営の実際 共につくる本との出会い
司会	牧 知慶（加賀市東和中学校）
記録	樋本めぐみ（長野市立北部中学校）

1 発表の概要

(1) 伊嶋亜紀子先生（小松市丸内小学校）

『良書を身近に感じられる環境を目指して』

問題：図書館を利用する生徒数・時間数と貸出冊数の減少

解決策：移動図書館の設置

- ・生徒会図書委員会が主催で玄関ホールにて 「プチ図書館」
- ・モニターで新刊案内や図書館情報を放映
- ・ホワイトボードで新聞記事やおすすめ本などの掲示
- ・掲示物が折り紙等で装飾物を作成

問題：読書傾向の変化

解決策：チャットやアンケートツールを用いた図書館と生徒とのつながりの創出

- ・Teams や Foams で貸出予約・図書館への要望など
- ・学校図書館のチャネル作成

◎ 良書に触れる・良書を手に取る機会の増加

◎ 生徒会活動の活性化

▲ 貸出冊数は増加せず

→ 対策：QR コードを本と共に置くことで、タブレットで貸出ができるようにした

▲ タブレットの変更による、手間の増加

→ 対策：学習用ポータルサイトを作成中

質疑応答

なし

第 75 回長野県図書館大会（佐久大会）兼 第 33 回北信越地区学校図書館研究大会

(2) 大工原 司（上田市神科小学校）

『「読書へのアニメーション」を活用した国語の授業の実践』

目的：児童の読書意欲の向上 物語の理解深化 主体的・対話的な学びへの貢献

具体策：「アニメーション」の導入

- ・国語の授業にて
- ・本や文章を読んだ後に、クイズなどの活動を取り入れる
 - (例) 一文を抜き出したカードの並べ替え
 - ・初めて読む文章で、文章構成の把握の際に使える
 - (例) わざと間違った文章を読む
 - ・記憶していた児童は、小さな間違いにも気づける
 - (例) 登場人物になりきって、インタビューに答える
 - ・心情読解の深化

◎ 場面把握能力の向上

質疑応答

- ・国語の授業で、「アニメーション」を使うのは導入の場面か？
 - 作品との出会いに使う
 - 全体把握をする効果がある
- ・今回の発表で扱った「100万回生きたねこ」は何年生を想定しているか？
 - 小学生だったら、何年生でもできると考えている
- ・評価方法の工夫
 - 場面の理解度で。単発ではなく継続的に行うことで、比較ができるようになる。

(3) 渡部 真人（胎内市中条中学校）

『「ビブリオバトル」を通した表現活動の充実と読書習慣の定着』

目的：効率よく、生徒に「話す力」「聞く力」を定着させる

具体策：「ビブリオバトル」の導入

- ・間接的な戦いとなる
- ・盛り上がりの条件
 - ① ほれ込んだ本を選定
 - ② 対話型（聴衆への投げかけ）
 - ③ 付加価値の紹介（この本を読むとこんなプラスの効果がある）

◎個人のことを語る場ではない→取り組みやすい

◎チャンプ本に選ばれることの喜び（優越感・自己有用感）

→ 個人の性格の変容をもたらすこともある

質疑応答

- ・選書の際、読書嫌いの生徒への対応は？
 - 期間を十分にとる。2～3カ月前から告知
- ・票の入らない生徒への配慮
 - 結果（票数）を気にしなくてよい と伝える
 - 人間関係で投票するのは禁止 「読みたい本」に一票を
 - ルールの明確化が重要

(4) 小出奈穂子（富山県富山東高校）

『豊かな言語活動と集団読書の効果的な関連を目指した「読書会」について』

目的：読書を学力の向上と社会性の構築につなげる

具体策：「読書会」の開催

- ・本を読むことが好きな人が集まる
 - メリット：楽しさ
 - デメリット：なし
 - ・学校教育に取り入れ、生徒の日常に反映させていく
 - ・読書会選定テキスト（課題図書）は職員が選定
 - ・図書委員が進行
 - ・マナーの明確化と浸透がポイント
 - 「安心して本について語れる」「他の参加者の意見を否定しない」
 - ・朝日新聞「読書は何の役に立つか？」
 - しっかりととした自分の価値観の土台を作る
 - さまざまな生き方を知ることで選択肢が広がる
- ◎ 内容を批判的にみる態度が養われる
- ◎ 自分と他人の本の読み進め方・解釈の仕方の違いに気づける

質疑応答

- ・読書感想文の現状（発表者より、各校の取り組みを聞きたいとの申し出あり）
 - 問題点：生成 AI の利用・インターネット情報のコピーあり
 - 生成 AI の活用の仕方を考える
 - STEP1 自分の価値観や意見といった土台を創る
 - STEP2 意図や目的をもって AI を使う
 - （例）より論理的にまとめる・誤字脱字を直す

2 討議の概要

討議なし